

保育界

2014
7



発行 日本保育協会

茂みこそ格好の遊び場 — ヴィッテンバー保育所・幼稚園（ドイツ） —

公益財団法人 日本生態系協会
教育研究センター長 田邊龍太

子どもの思いやる心、命やものを大切にする心を育むためには、自然の恵みを生かした保育環境づくりが重要です。ここでは、そうした環境づくりを積極的にすすめる海外の事例をご紹介します。



『園庭を、園舎と同様に、園児の主体的な遊びを促す環境にしたかった』
『“動”と“静”の両方の遊びができる環境にしたかった』

このような思いから、この園では園庭の一部に、高木とは別に、様々な種類の中低木をたくさん植えて、茂みをつくりました。

この茂みは、園児にとって格好の遊び場です。例えば、茂みの中にできたトンネルをくぐり抜けたり、中低木に囲まれた空間で仲の良いお友達と静かにお話しをしたり、基地をつくったりと、いろいろな遊びが行われています。

また、ここに植えられた中低木は、地域在来の種類ばかりです。花が咲き、実をつけ、紅葉したりと、この地域ならではの季節の変化を体感することができます。夏に中低木になる木の実は、園児の大好物です。固い殻を石で割って実を取り出す方法は、年長の子から年少の子へ、自然に引き継がれています。

■日本保育協会ほか後援『こども環境管理士 資格試験』 8月より受験申込開始！



自然についての正しい知識をもち、“自然がもつ保育力”を積極的に生かすことができる保育士、幼稚園教諭、支援者を「こども環境管理士」として認証しています。詳しくは、(公財)日本生態系協会 (TEL 03-5951-0244) まで。